

登壇

細川： GMO リサーチ&AI 株式会社代表取締役社長の細川です。5月1日より、旧 GMO リサーチ株式会社から社名変更をしております。本日はお忙しい中、当社決算説明会の動画をご視聴いただきまして誠にありがとうございます。これより 2024 年 12 月期第 1 四半期決算説明をさせていただきます。

本日の説明は、こちらに示したアジェンダに沿って進めさせていただきます。

まず、結論と要約です。

決算サマリーです。2024 年第 1 四半期の業績につきまして、売上高ですが、昨年からお伝えしているように、昨年、セカンドクォーターまでの特殊要因の影響のため、対前年度比マイナス 4.6% の 13 億 6,100 万円となりました。

売上総利益、いわゆる粗利率につきましては対前年度比マイナス 4.5% の 6 億 8,300 万円。ポイント原価率は改善しておりますが、売上減による原価内の固定比率が上昇したため、下半期には改善が見られる見通しです。

次に、販売管理費につきまして、販売先フォーカスの変更と、AI 活用などの構造変革のための体制整備で約 4,500 万円増加しております。営業利益につきまして、対前年度比約マイナス 40% の 1 億 1,900 万円を着地しております。経常利益につきまして、前期 1Q では為替差損約 400 万円がありましたが、当 1Q においては約 400 万円の為替差益の発生となったため、営業外損益プラス 900 万円の影響を受けております。

次に、2024 年第 1 四半期事業概況を説明いたします。

まず、世界のデータ分析・インサイト市場について説明します。世界の市場は 2022 年時点のデータが最新であり、全体で約 19.3 兆円ですが、その中で当社のメイン市場 サンプルパネル提供市場は約 3,330 億円あり、19.8% という高い成長率となっております。おかげさまで当社はこの市場で世界約 9 位のシェアを獲得しており、日本においては市場シェア 1 位を獲得しております。

また、セルフサービスプラットフォームという市場は、現在、約 4,785 億円であり、ここはさらに 26.8% の成長を遂げております。この成長の理由は、右のグラフにあるように、調査等を行う事業

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



会社が従来は調査会社に依頼して大規模に行っていた調査を小型化して、内製化し、直接実施している背景があるものと想像しております。

次に、前ページの事業環境認識のもとに設定いたしました、2024年事業戦略における粗利率の高い取引に注力の方針について説明させていただきます。これは、2023年第3四半期から実施してまいりました販売先フォーカスの変更施策の継続強化でございます。

国内においてはシェア1位を誇るサンプルパネル提供市場だけでなく、粗利率が高い事業会社向け販売でも急成長となります。ここは先ほども説明したように、事業会社の調査の内製化の流れで需要が拡大しているものなのですが、当社のプラットフォームをさらにAI等で強化することで、事業会社が直接ご活用いただけるようになり、成長してまいります。

一方、海外においては、アジアのサンプルパネル提供市場に引き続きフォーカスします。グローバルパネル会社経由でのアジアパネルを提供していただく部分は、システムのAPI連携等でさらに効率化してご提供し、調査会社向け販売を拡大していくことで、粗利率の改善をさらに進めてまいります。

次に、業界全体のトレンド変更・特殊要因の今期の昨年対比における影響について説明します。特殊要因の影響は、2024年1Qでは2023年比1.8億円あり、これらは2024年2Qまで継続しますが、3Q以降は発生しない予想となります。

特殊要因を分類すると、大きく二つです。一つに、高原価案件の絞り込みがあります。海外のグローバルパネル連携において、2023年第3四半期から開始しております、その影響額は1Qでは対前年比約8,100万円です。これについては、2024年2Qまでの影響が想定されております。

中国・インド調査会社においては、2023年第2四半期から開始しており、その影響額は対前年度比約1,200万円となります。これについては、2024年第1四半期の影響までですので、今後は影響がない見通しです。

第2に、資本再編・特定大型案件の減少があります。こちらは、国内のみで2023年第3四半期から開始しております、その影響額は1Qで対前年度比約8,700万円です。これについては、2024年2Qまでの影響が想定されます。

次に、国内・海外売上高推移になります。国内売上は対前年比でマイナス3%です。ただし、前ページで説明いたしました業界全体のトレンド変更・特殊要因による影響が約8,700万円あり、その分を除けば、前年比プラス5%となります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



また、海外売上は対前年比マイナス 8%です。ただし、業界全体のトレンド変更・特殊要因による影響が約 9,300 万円あり、その分を除けば前年比プラス 26%となりました。また、海外売上高比率は約 23%となり、前年とほぼ同等になっております。

次に、2024 年国内販売先別 1Q 実績について説明させていただきます。国内においては、事業会社向け売上の拡大により、想定どおり成長しております。今年から専任チームの倍増および調査会社で実施している調査設計レポート作成機能を AI 活用し、自社で実施を進めており、年間の期初成長予想がプラス 54%に対し、1Q でプラス 57%の成長と、確実に成果が出てきております。下半期に向けてメンバーの習熟も進み、さらに成長率が上がっていくことを期待しております。

一方、調査会社向けは、期初成長予想がプラス 11%に対し、マイナス 11%という減少となりました。しかし、特殊要因の影響を考慮すれば、マイナス 2%であり、多少弱含みのスタートとなっておりますが、下半期の特殊要因による影響が終了することと、市場の成長期待もあるため、想定範囲内と想像しております。

次に、2024 年事業戦略における海外販売先別 1Q 実績を説明させていただきます。調査会社向けの売上は、年間の期初成長予想がプラス 21%に対し、プラス 32%の成長で順調に拡大しております。また、粗利率も前年程度の高い粗利率を維持しております。

一方、グローバルパネル会社向けは、年間の期初成長予想はマイナス 14%としておりましたが、マイナス 55%となりました。1Q においては、昨年対比では、特殊要因の影響はありましたが、それを除けば為替影響もあり、プラス 13%の成長となっております。こちらも多少厳しい滑り出しではあるものの、下半期に向けて特殊要因もなくなるため、挽回していける範囲と考えております。

次に、国内販売先別通期の見通しに関して説明します。当社の国内の売上見通しを見るにあたり、1Q から 4Q への偏重のトレンドがあるため、四半期で見る必要があると考えております。同様に、人件費は含まない年間の平均パネル原価のみを勘案した粗利は、調査会社 59%に対して事業会社 75%と、粗利構造の開きがございます。併せて、調査会社向けの特殊要因の影響は、今期に関しては 2Q までのため、利益も下期偏重の構造になることが分かるかと思えます。

次に、海外の販売先別通期の見通しに関して説明します。当社の海外売上見通しを見るにあたり、4Q の偏重のトレンドがあるため、四半期でこちらも見る必要があると考えております。同様に、人件費は含まない年間の平均パネル原価のみを勘案した粗利は、グローバルパネル会社 37%に対して調査会社 51%と、粗利構造の開きがこちらもございます。併せて、グローバルパネル会社向

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



けの特殊要因の影響は、こちら今期に関しては2Qまでのため、利益も下期偏重の構造になることが分かるかと思えます。

次に、販売管理費の見通しです。当社の販売管理費の約50%は人件費となります。よって、退職率の上下動はあるため、多少のぶれはありますが、ある程度はコントロール可能で、今期も過去の実績同様のペースで構造改革を進めていく予定です。

次に、当社は5月1日より社名変更しましたが、名前のおり、業界で最もAIを活用して業界変革を進めていく会社になることを示す名前といたしました。

今後のAIの活用ステップはこちらのとおりで、4ステップございます。まずはファーストステップ、販売先フォーカスの変更に合わせて、社内でAIの生産性の劇的な向上を掲げております。こちらは、一般的に市場にあるAIを使って社内のプロセスを改善するものです。

次のステップ2は、業界のAI化、生産性の劇的な向上。こちらに関しては、当社のプラットフォームにAIをエンジンとして載せ、当社のプラットフォームを使っていただくものです。当社は日本で市場シェアNo.1ですので、市場全体の効率化を図っていくためのものになります。

ステップ3は、パネル会社、当社のアンケートに答えていただく消費者の方々に向けて、負荷の軽減や不正の排除などの品質を改善していくもの、もしくは効率の悪い部分を改善していくものです。

ステップ4は、当社と消費者の接点になります。当社はパネルを保有している会社=ロイヤリティ顧客を持たれていらっしゃる会社様と、仕入れ関係のお付き合いをさせていただいていますが、この会社様のデータをお預かりしている関係上、この会社様に対して価値提供=新しいサービスを提供することができると思っております。これはAIでデータを使うことによって、さらに今までできなかったことができるマーケティングの改善のご提案ができるようになっていく想定です。

こういったステップで実施していきますが、特に2024年に関しては、ステップ2以降の準備はしながら、まずはステップ1の影響の数字だけで実現可能と思っております。

「想いを、世界に」、GMO リサーチ&AI。本日はお忙しい中、お時間ありがとうございました。

脚注

1. 音声不明瞭な箇所については[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行わないものとします。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

